

科学・技術交流サロン「宇宙利用の新しい展開」

(「学内広報 no.1488」(2016.11.24)第132回 Crossroad 掲載記事より以下抜粋)

科学・技術交流サロンは、産官学の幅広い分野の有識者が集まり、社会の発展を見据えてオープンな議論を通じて課題やその解決策を明確にし、イノベーション創出の促進を担う活動です。本サロンのテーマの1つ「宇宙利用の新しい展開」では宇宙開発技術の新たな応用を検討し、日本の宇宙産業をいかに発展させるかを検討してきました。全球規模での超小型衛星等の商業利用が期待され、衛星利用の環境が整備されつつあります。大学院工学系研究科中須賀真一教授が座長となり、計9法人が参加、約1年間活動を行ってまいりました。

前半6か月では大学研究者やビジネスを展開している企業等が講義を担当し議論を深めました。また留学生によるアイデア提案会、法人メンバーから課題や提案を出し合いブレインストーミングを行いました。後半6ヶ月では法人メンバーと中須賀教授との個別面談により新しいビジネス展開について議論を深めました。

最終報告会には大学関係者と法人メンバーの約50名が参加しました。冒頭中須賀教授が本サロン活動をまとめ、応用分野ごとの宇宙利用の特徴と可能性について総括しました。

また今後のビジネス発展のための方法論・戦略として

- ①プラットフォーム・ビジネスの可能性
- ②考える道筋を変えてみる
- ③新しいビジネスへのアイデア
- ④効果的な技術ブレークスルー
- ⑤海外展開での大学との連携の重要性

について言及しました。



法人メンバーからは「今後の宇宙開発への期待」を発表しました。海外での衛星利用としてカンタン ヴェルスピレン氏（中須賀研究室所属・修士2年）が“International FieldWork”を報告、福代孝良氏（内閣府宇宙開発戦略推進事務局主査）が「宇宙システム海外展開タスクフォースの活動」を紹介しました。

本サロンの統括として中須賀教授は「宇宙利用を発展させるためには、衛星を活用するプレーヤを増やしオープンイノベーション的に連携を促進させることが重要で、大学の技術力とネットワークを活用した国際的ネットワークを構築し、事業化の試行をどんどん進めてほしい」と呼びかけました。またサロン責任者のイノベーション推進部各務茂夫部長は米国の宇宙ビジネスを例にベンチャーを含む産学官の連携がイノベーションを結実すると締め括りました。